

『高齢社会白書』平成26年度 高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況

第1章 高齢化の現状

上記の白書所載の関係統計資料から抜粋しました

第1節 高齢化の状況

総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は26.0%（前年25.1%）に。

表1-1-1 高齢化の現状

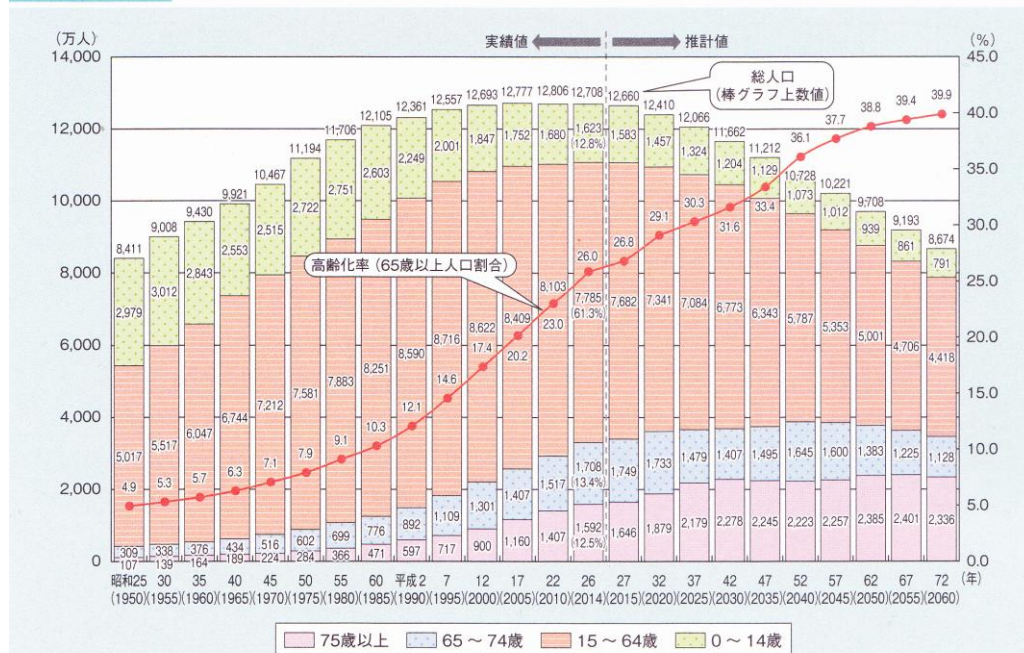
		平成26年10月1日			平成25年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,708	6,180	6,528	12,730	6,191	6,539
			(性比) 94.7			(性比) 94.7	
	高齢者人口(65歳以上)	3,300	1,423	1,877	3,190	1,370	1,820
			(性比) 75.8			(性比) 75.3	
	65～74歳人口	1,708	810	898	1,630	772	858
			(性比) 90.2			(性比) 90.0	
構成比	75歳以上人口	1,592	612	979	1,560	598	962
			(性比) 62.5			(性比) 62.2	
	生産年齢人口(15～64歳)	7,785	3,926	3,859	7,901	3,981	3,920
			(性比) 101.7			(性比) 101.6	
	年少人口(0～14歳)	1,623	832	792	1,639	840	800
			(性比) 105.1			(性比) 105.0	
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口(高齢化率)	26.0	23.0	28.8	25.1	22.1	27.8
	65～74歳人口	13.4	13.1	13.8	12.8	12.5	13.1
	75歳以上人口	12.5	9.9	15.0	12.3	9.7	14.7
	生産年齢人口	61.3	63.5	59.1	62.1	64.3	59.9
	年少人口	12.8	13.5	12.1	12.9	13.6	12.2

資料：総務省「人口推計」（各年10月1日現在）

（注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

総人口が減少するなかで、高齢化率は上昇。高齢者人口は平成26年に3300万人。

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計



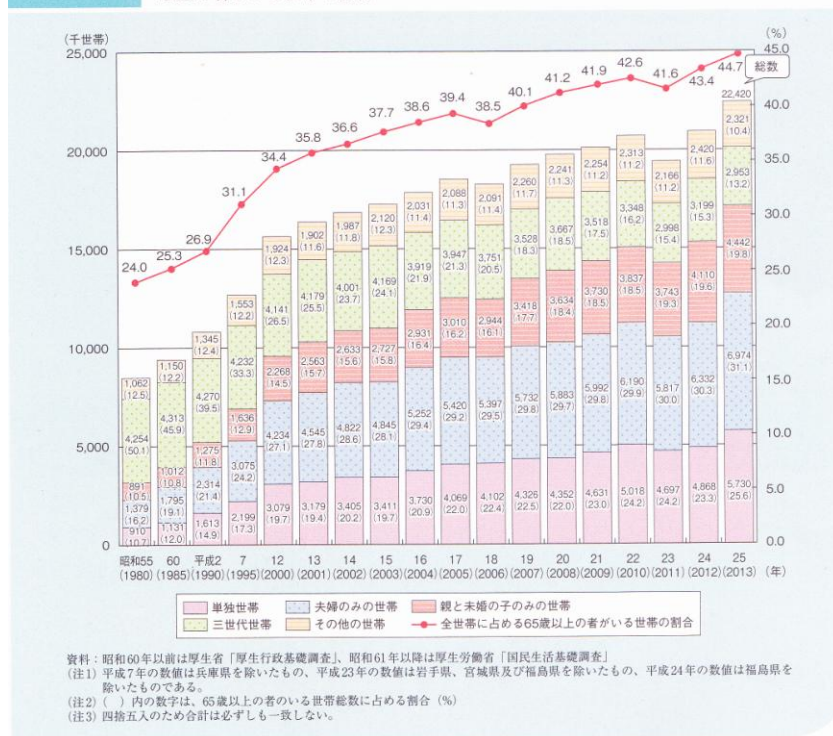
資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2014年は総務省「人口推計」（平成26年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
（注）1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

第2節 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

高齢者の家族と世帯

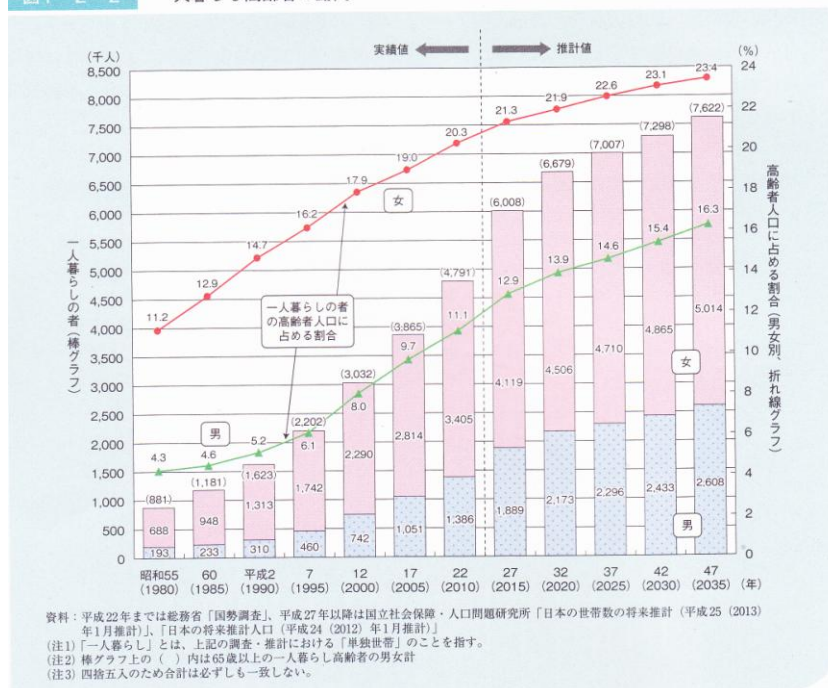
65歳以上の高齢者がいる世帯は全世帯5011万のうち44.7%2242万世帯。

図1-2-1 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



一人暮らし高齢者の男女別数と高齢者人口に占める割合。平成27年に女性は21.3%。

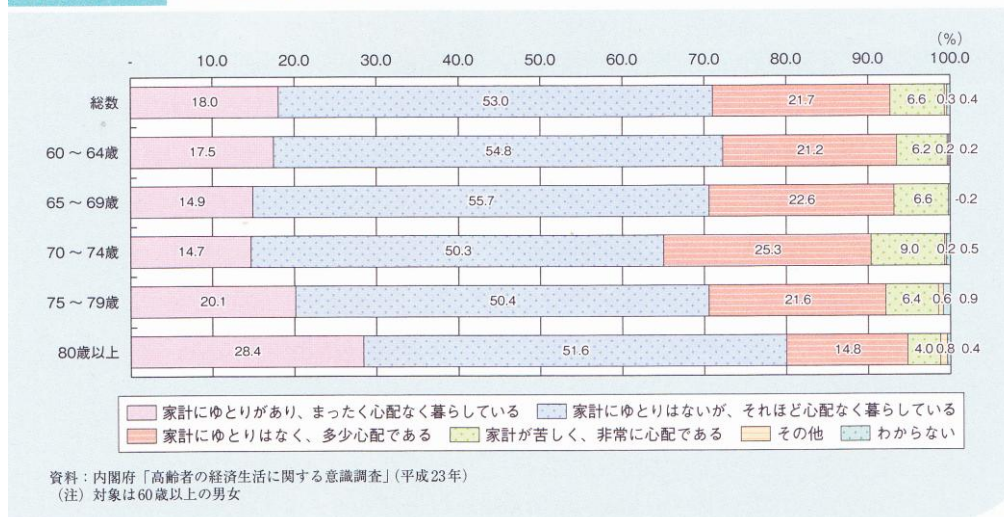
図1-2-2 一人暮らし高齢者の動向



高齢者の経済状況

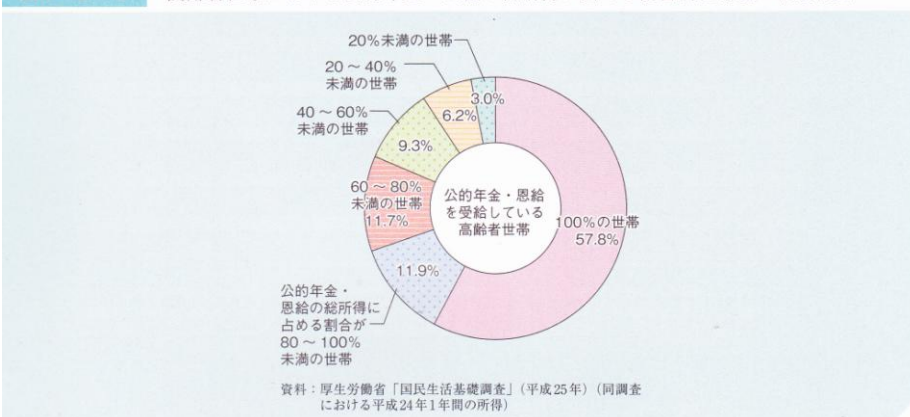
経済的な暮らし向きに「心配ない」と感じる高齢者は約7割。80歳以上では8割に。

図1-2-3 高齢者の暮らし向き



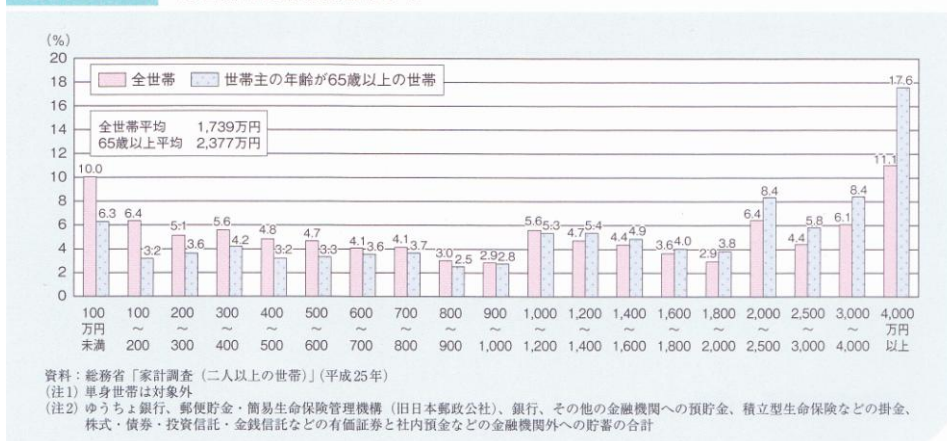
高齢者世帯平均年間所得は309.1万円。公的年金・恩給が所得100%の世帯が58%。

図1-2-5 高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合



65歳以上世帯の平均貯蓄額は2377万円。目的は「病気・介護の備え」が62.3%。

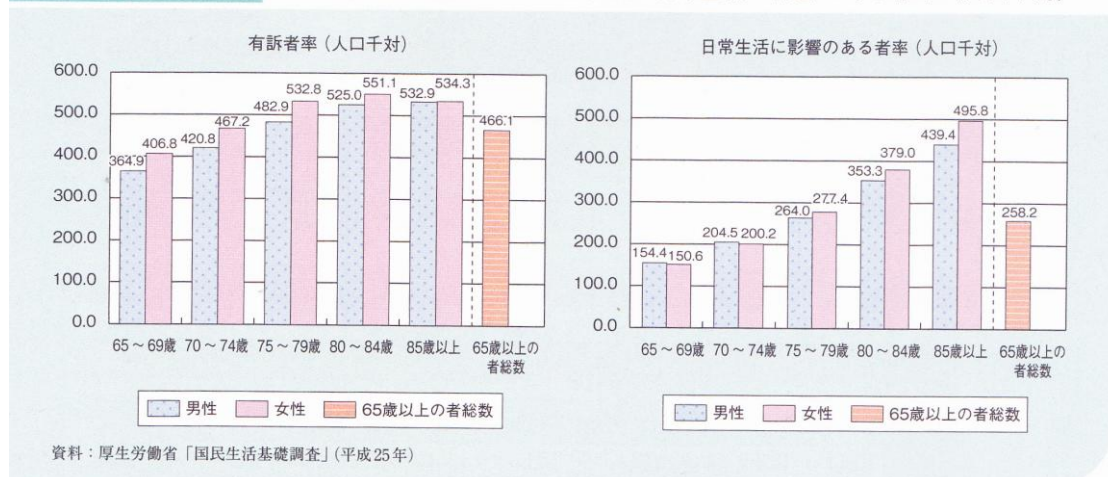
図1-2-7 貯蓄現在高階級別世帯分布



高齢者の健康・福祉

高齢者の半数近くが何らかの自覚症状を訴えている。日常生活に影響は4人にひとり。

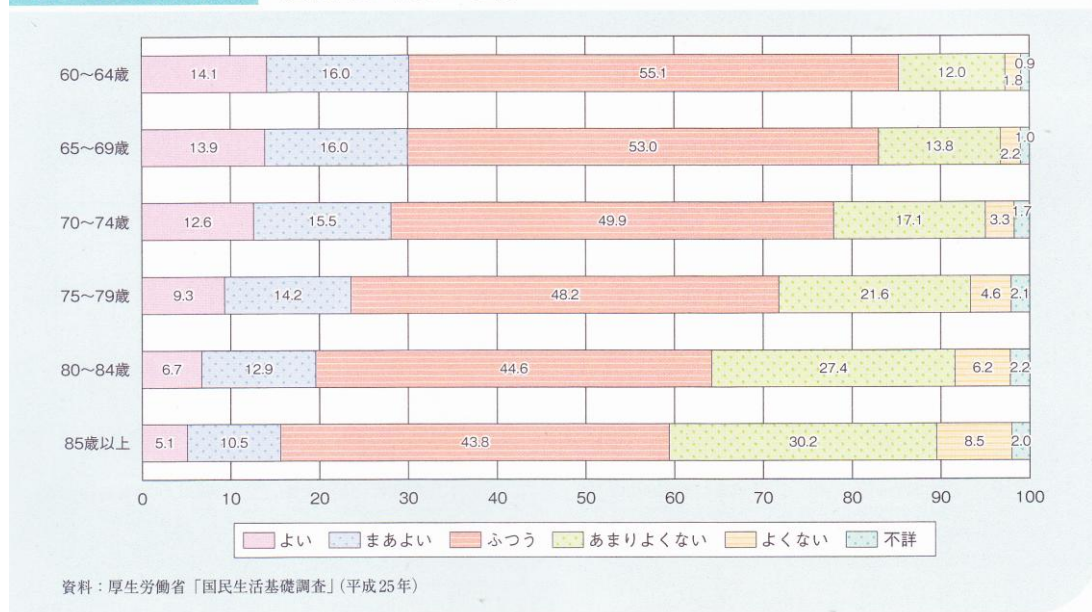
図1-2-10-(1) 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率（人口千対）



65歳以上の高齢者の平成25年における「有訴者率」（ここ数日、病気やけが等で自覚症状のある者で、入院者を除いた数）は人口1,000人当たり466.1と半数近くの人が何らかの自覚症状を訴えている。一方、65歳以上の高齢者の「日常生活に影響のある者率」（現在、健康上の問題で、日常生活動作、外出、仕事、家事、学業、運動等に影響のある者。入院者を除いた数）は、平成25年において人口1,000人当たり258.2と、「有訴者率」と比べるとおよそ半分になっている。

健康状態がよい、まあよい、ふつうの人が64歳までは85%、85歳を越えても60%。

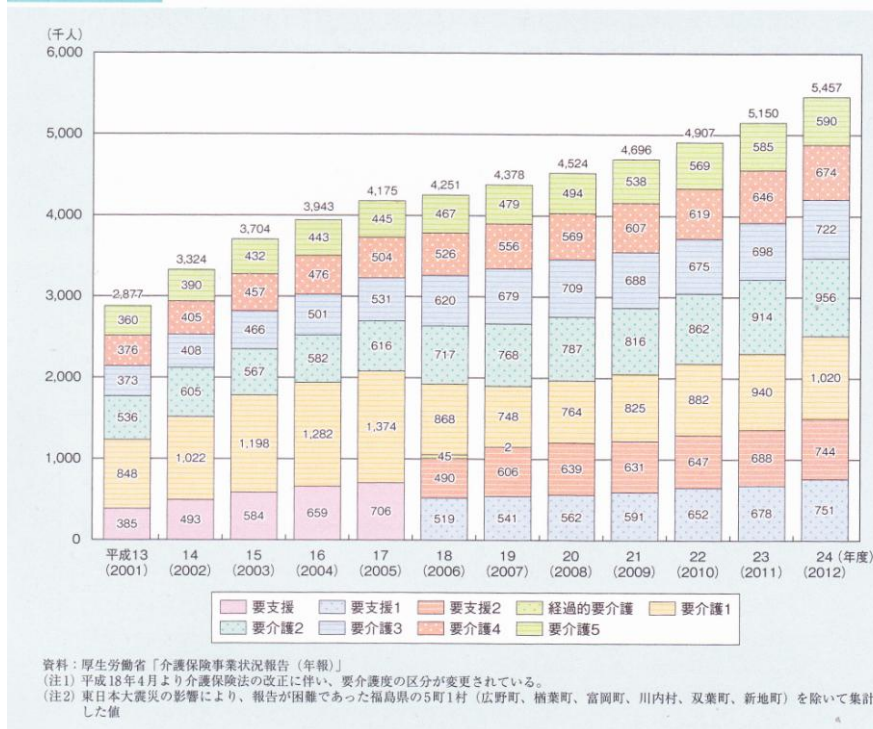
図1-2-10-(3) 健康状態に関する意識



介護認定者・介護者

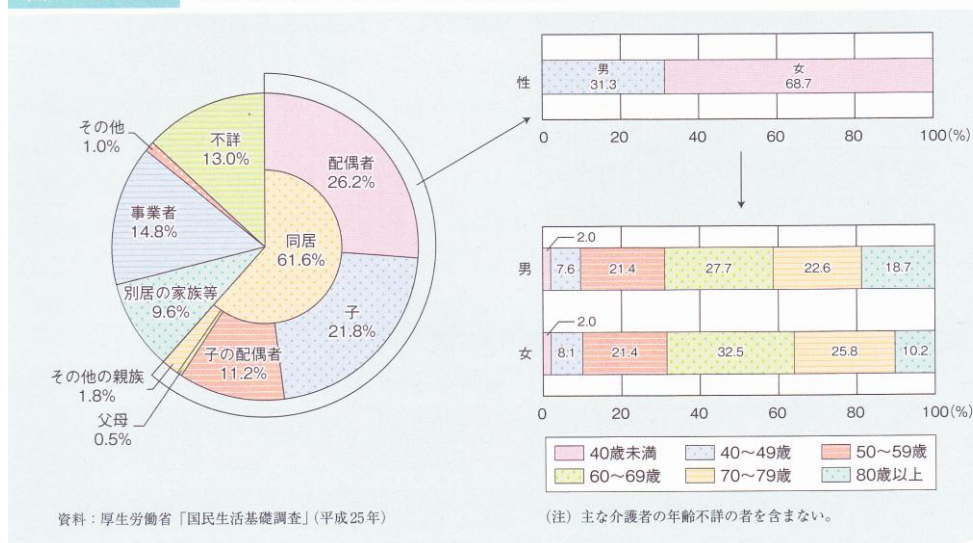
65歳以上の要介護認定者数は平成24年度末で545.7万人まで増えつづけている。

図1-2-13 第1号被保険者（65歳以上）の要介護度別認定者数の推移



要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、介護者の6割以上が同居している人。その主な内訳は、配偶者が26.2%、子が21.8%、子の配偶者が11.2%。性別では男性が31.3%、女性が68.7%と女性が多い。同居している主な介護者の年齢について、男性では69.0%、女性では68.5%が60歳以上であり、「老老介護」のケースも相当数存在。

図1-2-16 要介護者等からみた主な介護者の続柄



高齢者の就業

平成26年の時点で60～64歳の雇用者は447万人、65歳以上が増えて414万人。定年(60歳定年企業)まで到達した人は81.4%。希望して継続雇用されなかった人は0.3%。

図1-2-19 雇用者数の推移(全産業)

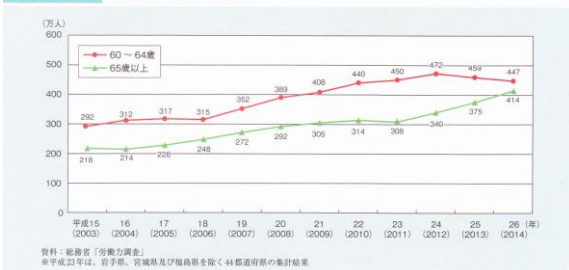
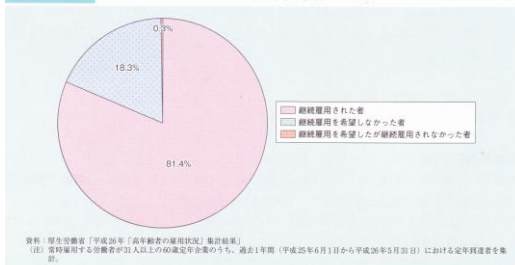
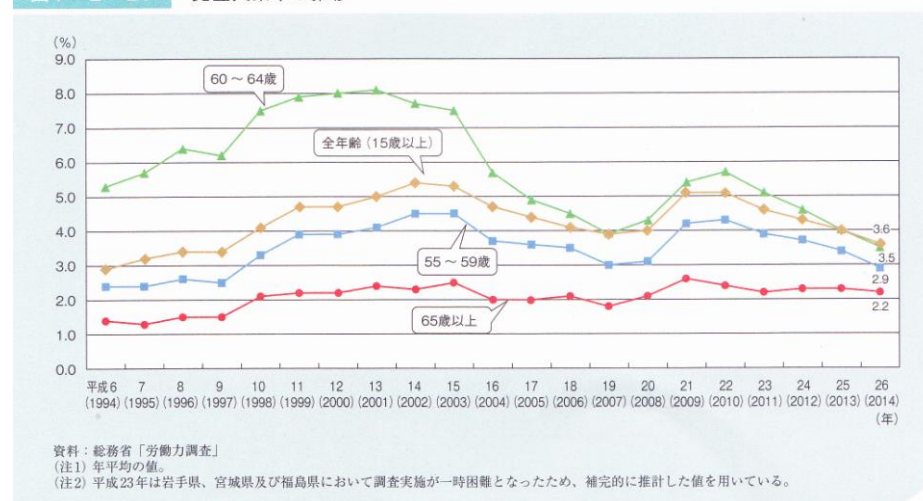


図1-2-20 60歳定年企業における定年到達者等の状況



60～64歳の完全失業率は下がりつづけてきた。平成26年は3.5%で全年齢計を下回る。

図1-2-21 完全失業率の推移



65歳以上の労働力人口は昭和60(1985)年の5.0%(5963万人のうち300万人)から平成26(2014)年には10.6%(6587万人のうち696万人)に。

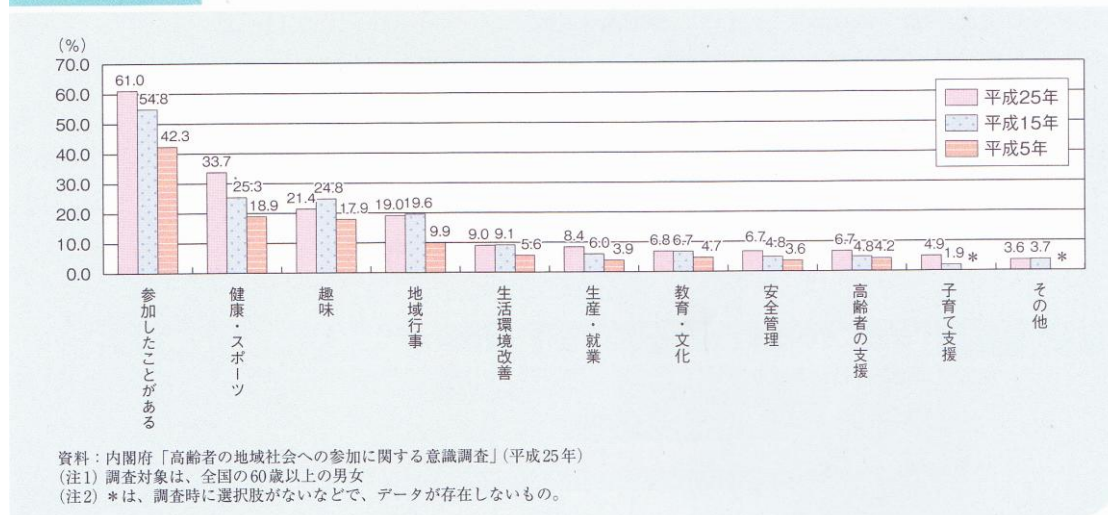
図1-2-22 労働力人口の推移



社会参加活動

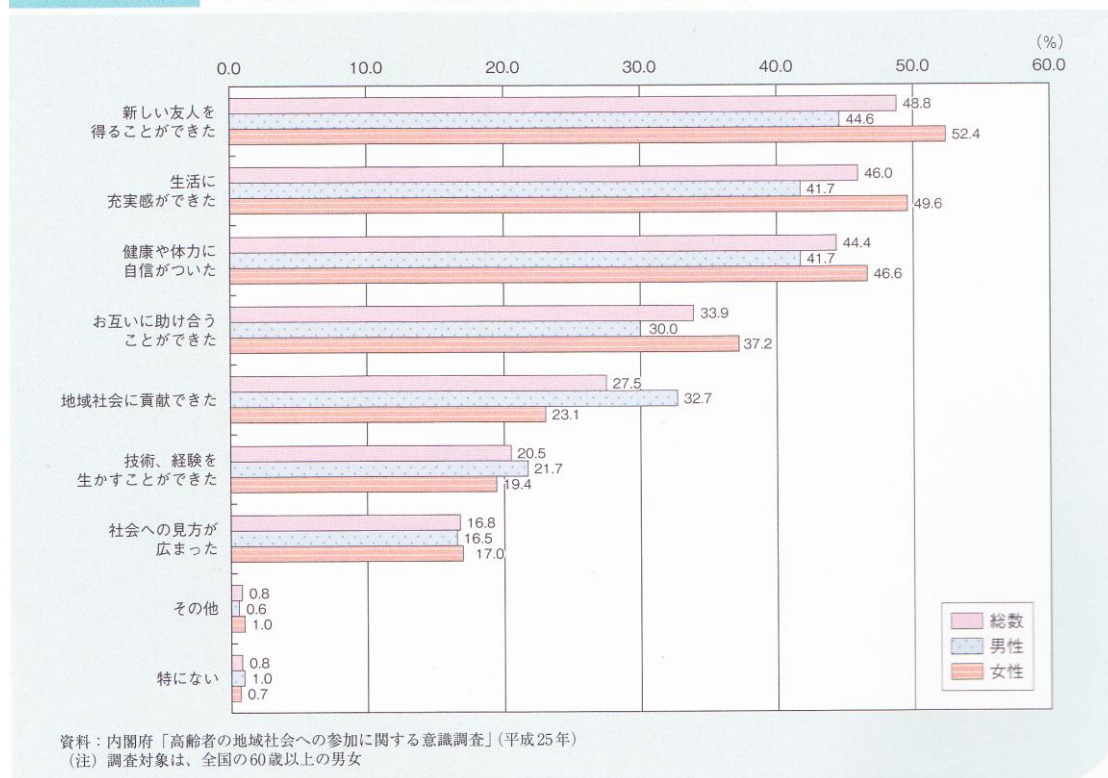
60歳以上の高齢者の約6割は何らかのグループ活動に参加。20年で2割増えた。

図1-2-23 高齢者の自主的なグループ活動への参加状況（複数回答）



活動に参加している高齢者の、参加による効果は、「新しい友人を得ることができた」（48.8%）が最も多く、次いで「生活に充実感ができた」（46.0%）、「健康や体力に自信がついた」（44.4%）、「お互いに助け合うことができた」（33.9%）、「地域社会に貢献できた」（27.5%、男性の参加による効果が目立つ）の順となっている。

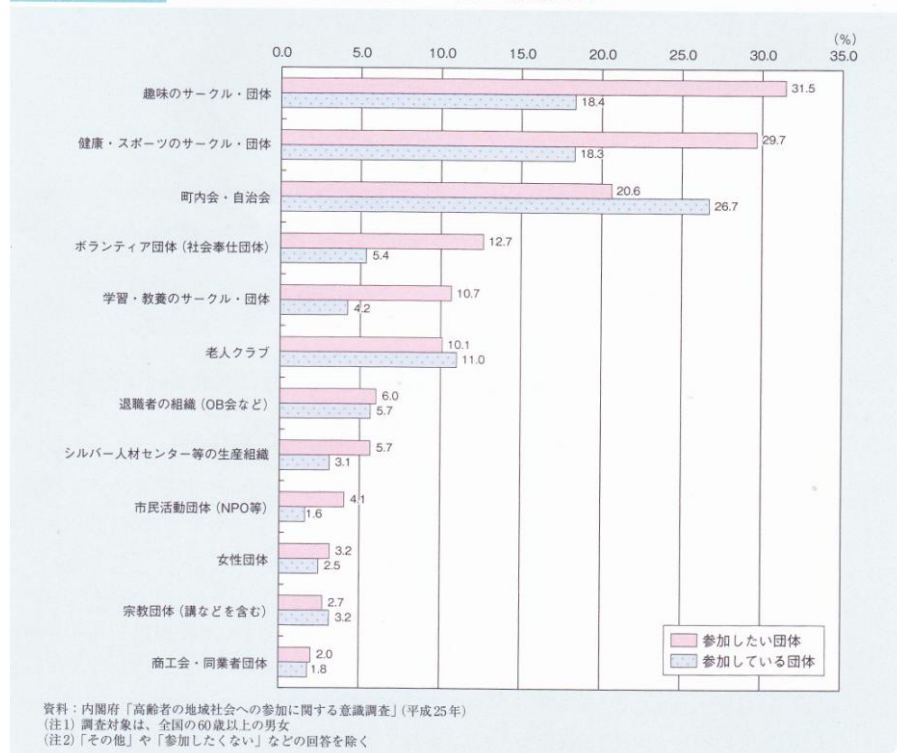
図1-2-24 高齢者のグループ活動参加による効果（複数回答）



参加したい団体

「趣味のサークル」が最も多く、次いで「健康・スポーツのサークル」となっている。

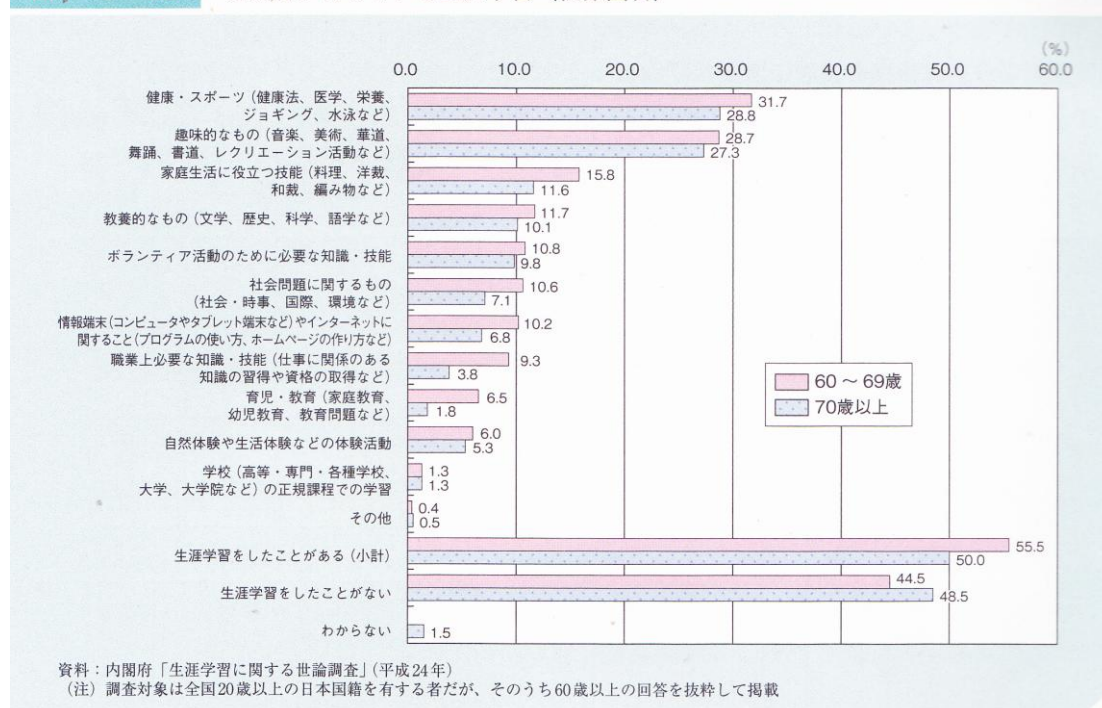
図1-2-25 参加したい団体と参加している団体（複数回答）



行なっている生涯学習

60代、70歳以上でも5割が参加。「健康・スポーツ」と「趣味的なもの」が多い。

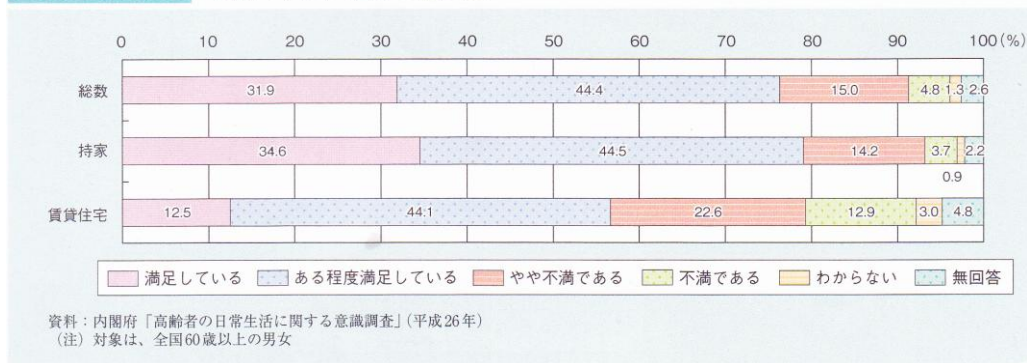
図1-2-26 高齢者が行っている生涯学習（複数回答）



生活環境・生きがい

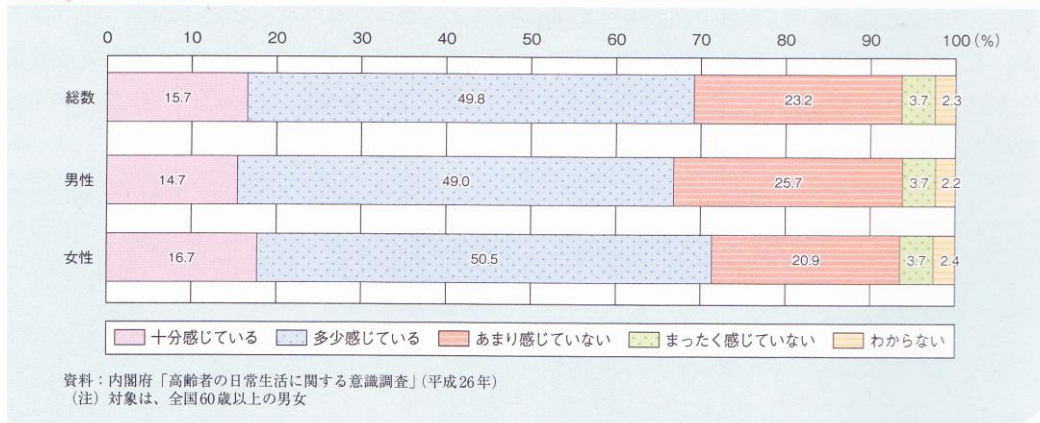
60歳以上の高齢者の住宅満足度は「満足」又は「ある程度満足」が76.3%。

図1-2-28 現在の住居に関する満足度



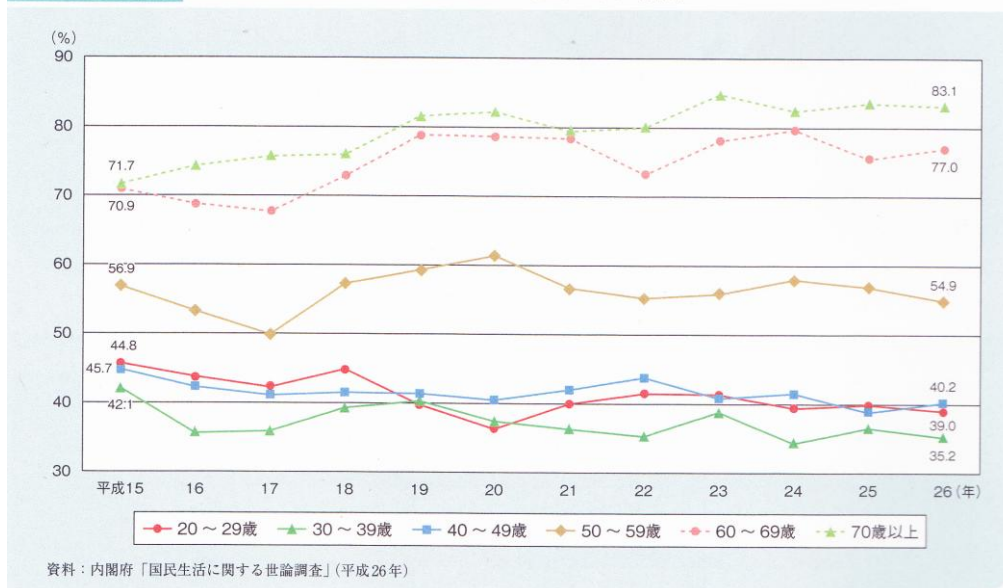
60歳以上の高齢者は生きがいを「十分に感じている」と「多少感じている」で約7割。

図1-2-32 生きがいの程度



「毎日の生活の充実」に力を入れたい人が60代では77.0%、70歳以上では83.1%。

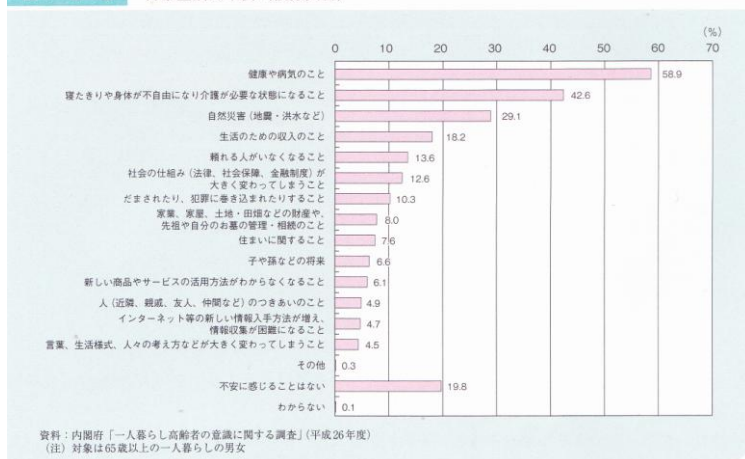
図1-2-33 生活を充実させて楽しむことを重視する人の割合



第3節 一人暮らしの高齢者

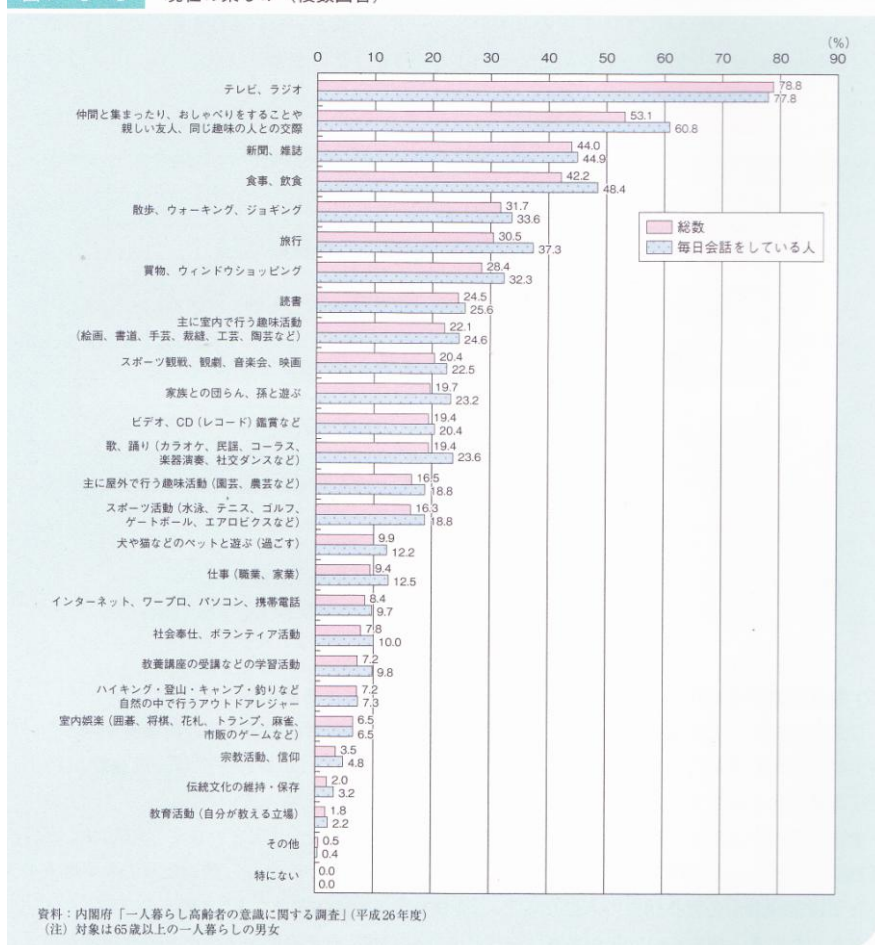
日常生活の不安 健康や病気（58.9%）が最も多く、次いで介護が必要となること（42.6%）、生活のための収入（18.2%）、頼れる人がいなくなる（13.6%）も。

図1-3-3 日常生活の不安（複数回答）



現在の楽しみ 上位5位をみると、「テレビ・ラジオ」、「仲間とおしゃべり」、「新聞雑誌」、「食事」、「散歩、ウォーキング、ジョギング」となっている。

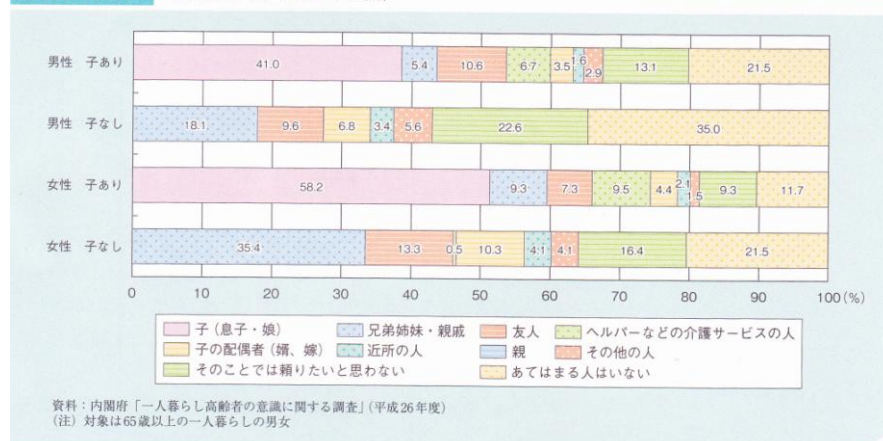
図1-3-6 現在の楽しみ（複数回答）



人との付き合い・将来への準備

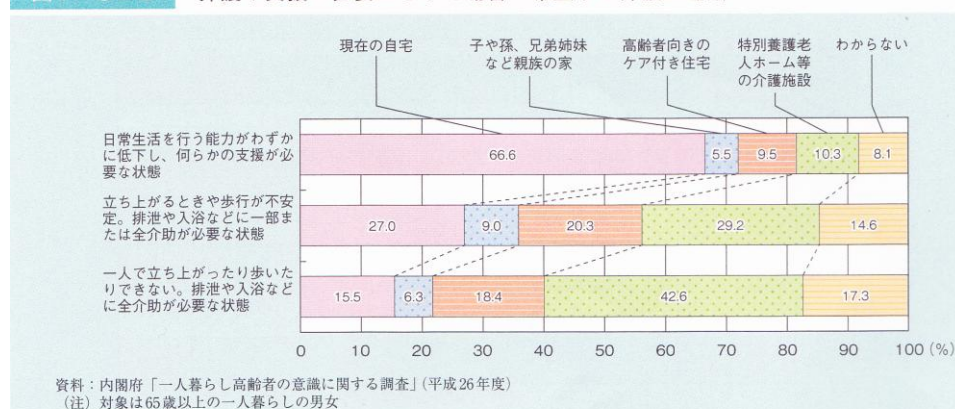
頼りたい人（看護や世話）は、子どもがいれば「子」だが、男性は「頼らない」も多い。

図1-3-7 頼りたい人（看護や世話）



支援必要までは「現在の自宅」で暮らすが66.6%と最も多く、全介助では15.5%に。

図1-3-8 介護や支援が必要になった場合に希望する介護の場所



今後おこる終末期医療、葬儀、お墓それぞれについて約4割の人が考えていない。

図1-3-10 今度おこるかもしれないことへの備え

